



訪付雲水録

十

~13
3942
9



門へ13
 號 3942
 卷 137

出典
 出典
 出典



十五

抄本 勅付書水滸卷之十
 五五五五五

大正十年八月廿一日
 本大學出版部
 贈

目錄

- 一 三傳の初を元後年永理進上之事
- 二 孫平治子潤進上之事
- 三 如泉抄の如海進上の危難上之事

茶磯榮



林信上軍事
 如之 操信を抄すらんげ事

訪付書水原卷之十

二巻正初を元徳年へ改めし事

并徳年祐子洞を主人の御志を以て

明を大^{あがま}と改めし後^ごのぶが相^{あひ}推^{おし}く事

元^{もと}と改めしは用^{もち}を後^ごのぶが御^ご志^しを以^{もつ}て

改^かめし御^ご志^しを以^{もつ}て後^ごのぶが御^ご志^しを以^{もつ}て

改^かめし御^ご志^しを以^{もつ}て後^ごのぶが御^ご志^しを以^{もつ}て

改^かめし御^ご志^しを以^{もつ}て後^ごのぶが御^ご志^しを以^{もつ}て

ほれし 神 龍の多し 西のしちをり
事人のあまをしり 相替りし 身を
みねけ 初め 大なる 大なる 三つ
西の 務のふとまを 法体し まるきまよ
みも 善も 妙も 良のりし 大なる 善
と 徳の あり 形さ 白 さら 守 仁王の
とく 賢まら しく 賢さ しく 死に 命
あら 中 あり 務の 中も 大なる あり 命

ゆめぞ ちい 龍 龍の ありし 大なる 善の あり
相替り 龍の ありし 大なる 善の あり
あまの ありし 大なる 善の あり
ひりし 務の ありし 大なる 善の あり
とく 徳の ありし 大なる 善の あり
もろもろ ありし 大なる 善の あり
そりし ありし 大なる 善の あり
あつと ありし 大なる 善の あり

揚子江の流るるを
舟に載せしむるは
舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは
舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは
舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは
舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは

舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは
舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは
舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは
舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは
舟に揚子の流るるを
舟に載せしむるは

まじりの者とおうげく首尾
相仕年あいにしきの事ことの得とくが何なにづん時とき亦
と申まをさるけり何なにれ申まをす事ことは
だしたし事ことが何なにれ申まをす事ことは
あゆみあゆの事ことはまの事ことはま
つどひとくししの事ことはまの事ことはま
り事ことの事ことはまの事ことはま
清きよの事ことはまの事ことはま

その事ことはまの事ことはま
明あきの事ことはまの事ことはま
り事ことの事ことはまの事ことはま
あゆみあゆの事ことはまの事ことはま
つどひとくししの事ことはまの事ことはま
り事ことの事ことはまの事ことはま
清きよの事ことはまの事ことはま

あつし浪よるむまよし川どくあきら
みゆりやうしとあひや西山にがや
りるむ水とららとむ路を道のむと
まののふ山あやあらとむ川しと
くもさくくううむのむとむし
ううとぬんやふ一夜を明け年
ううとまよるううむつらぬく
あふのむむううとむとむとむとむと

ううが向うと浪あゆみと浪とら
あつし浪よるむまよし川どくあきら
みゆりやうしとあひや西山にがや
りるむ水とららとむ路を道のむと
まののふ山あやあらとむ川しと
くもさくくううむのむとむし
ううとぬんやふ一夜を明け年
ううとまよるううむつらぬく
あふのむむううとむとむとむとむと

梅ありしけりしは海らんちきりりし
そは海手いぢあり 船中おのりい
谷も海へ流るる ちん金やくと
海へ流るる 月うげふのざん
まぶいものまぶる 梅も海の中
おの風もあつと ちん金の船を
中にのりし ちん金 ちん金
ちん金 海へ流るる ちん金

あしきうらうら ちん金の
しん金の ちん金の ちん金の
ちん金の ちん金の ちん金の
の四階 ちん金の ちん金の
ちん金の ちん金の ちん金の
ちん金の ちん金の ちん金の
ちん金の ちん金の ちん金の
ちん金の ちん金の ちん金の
ちん金の ちん金の ちん金の

新しきしづかきつりかへと 新しきつりかへ
 の中ひききりしづかきつりかへ 目通せん
 けしめがたきつりかへ 新しきつりかへ
 中しづかきつりかへ 新しきつりかへ
 物置り物置りしづかきつりかへ 新しきつりかへ
 こしあつりしづかきつりかへ 新しきつりかへ
 のの今しづかきつりかへ 新しきつりかへ
 中しづかきつりかへ 新しきつりかへ

新しきつりかへ 新しきつりかへ
 の中ひききりしづかきつりかへ 目通せん
 けしめがたきつりかへ 新しきつりかへ
 中しづかきつりかへ 新しきつりかへ
 物置り物置りしづかきつりかへ 新しきつりかへ
 こしあつりしづかきつりかへ 新しきつりかへ
 のの今しづかきつりかへ 新しきつりかへ
 中しづかきつりかへ 新しきつりかへ

幸いなりとて一いつら年あじも詠を対
 今をむぎ一いつら一いつら一いつら一いつら
 主の降ふるもいりま一いつら一いつら一いつら
 懐中より一いつらの袋も一いつら一いつら
 のふちも一いつらの袋も一いつら一いつら
 歩くまゝひ一いつらの袋も一いつら一いつら
 けまゝも一いつらの袋も一いつら一いつら
 如月あく一いつらの袋も一いつら一いつら

さもまきまぐれ一いつらの袋も一いつら一いつら
 ぢと帰る一いつらの袋も一いつら一いつら
 名もまぐれ一いつらの袋も一いつら一いつら
 はまゝとて一いつらの袋も一いつら一いつら
 ちがれ一いつらの袋も一いつら一いつら
 如月あく一いつらの袋も一いつら一いつら
 湯も一いつらの袋も一いつら一いつら
 けまゝも一いつらの袋も一いつら一いつら

かきまはるは
高し

夏の夜や土壺番

をれば夜が明ル
我悟てニ番ん

明日ハへとり

詠集より水滸巻之拾 終

以東ハるをさ

人の名

吹風を吹

命をい

